

『たすけ』の気まぐれコラム（第二回）

こんにちは『たすけ』です。今回は引き続き結露のお話です。

前回お話したように、結露は温度と湿度の相関関係で発生したり発生しなかったりします。

最も手軽な断熱リフォームは内窓設置（費用対効果が最も高い）なのですが、**内窓を設置したのに、結露が減らない、逆に増えた**という事例があります。

断熱性能は間違いなく上がっている（温度は上がる）にも関わらず、このような現象が起きるのは**湿度が上がっていることが原因**です。

人間が生活する上で必ず『生活発生水』が生じます。何もしなくても呼気から水蒸気が供給されるのですが、**暖房・調理・洗濯・入浴などで大量の水蒸気が室内にバラ卷かれます**。

暖房器具に多いファンヒーターですが、灯油1リットルを消費すると1リットル以上の水蒸気が発生すると言われています。

古くなったサッシは気密性能が劣化し、発生した水蒸気を室外排出していますが、内窓設置により、排出が阻害されます。実は**内窓は断熱性能が高いだけでなく、気密性能も高い**（そのため暖房効果が高まる）ので、窓以外に隙間が少なければ良く起こる現象です。

マンションなど、元々開口部以外の気密性能が高い建築物では顕著です。

このように**室内の湿度が高まった結果、室内温度が高いにも関わらず結露が発生する**ということがあるのです。

もう1つの原因がカーテンです。カーテンには断熱性能が高いものも多く、室内暖気を滞り、内窓のガラス部分を暖めない（表面温度が下がる）という効果（逆効果）があります。

熱は止めるのですが、湿気は通すので、**内窓表面は高湿度・低温となり結露を助長させる**結果となります。

さらに内窓は窓枠部に設置されますから、カーテンとの隙間がほとんど無くなり、空気流通（対流）が無くなるという結露防止には最悪な状態も生じます。

大抵のお宅で就寝前に暖房を消すでしょうから、明け方には温度低下が著しい内窓表面に結露が発生するということになります。

次回は、こんな時の結露防止対策を伝授します。お楽しみに。

